

平成 2 5 年度

- 第 1 0 回 (定例 ・ 臨時) -

教育委員会会議録

開 会	平成 2 5 年 1 0 月 1 0 日	午前 午後	2 時 0 0 分			
閉 会	平成 2 5 年 1 0 月 1 0 日	午前 午後	3 時 2 5 分			
会 議 場 所	教育委員室					
委員出欠	松村佳子	出	花山院弘匡	出	佐藤 進	出
	森本哲次	出	藤井宣夫	欠	富岡将人	出
議事録署名	教 育 委 員 長					
委 員	教育委員長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議案及び議事内容	結果
<p>次 第</p> <p>議決事項 1 平成26年度奈良県立高等学校入学者募集人員について</p> <p>議決事項 2 平成25年度文化財保護功労者感謝状の贈呈について</p> <p>報告事項 1 平成25年 9 月定例県議会の概要について</p> <p>報告事項 2 平成25監査年度第 1 回監査結果報告について</p>	<p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>承 認</p> <p>承 認</p>
<p>松村委員長「ただ今から、平成25年度第10回定例教育委員会を開催いたします。本日は、藤井委員が欠席ですが、定足数を充たし委員会は成立しておりますので、これより委員会を開催いたします。」</p>	
<p>松村委員長「まず、はじめに前回の定例教育委員会会議録の承認についてです。」</p> <p>「お手元に配布の前回の定例教育委員会会議録について、各委員内容をご確認ください。」</p> <p>「ご承認を頂けますでしょうか。」</p> <p style="text-align: center;">各委員一致で承認</p>	<p>承 認</p>
<p>松村委員長「議決事項 2 『平成25年度文化財保護功労者感謝状の贈呈』につきましては、人事に関することでございますので、秘密会において審議すべきものと考えます。委員の皆様にお諮りします。いかがでしょうか。」</p> <p style="text-align: center;">各委員一致で可決</p>	<p>可 決</p>
<p>議決事項 1 平成26年度奈良県立高等学校入学者募集人員について</p>	
<p>松村委員長「それでは、議決事項 1 『平成26年度奈良県立高等学校入学者募集人員』について説明願います。」</p> <p>教育長「平成26年度の県立高等学校の入学者募集人員につきまして、課程ごとに定めるものでございます。詳細につきまして、学校教育課長よりご説明いたします。」</p> <p>学校教育課長「まず、『全日制課程の募集人員』について説明します。平成26年 3 月の県内中学校卒業予定者数は、本年 5 月 1 日現在の学校基本調査による中学校 3 年生の在籍生徒数と同数の14,081人と推定しました。昨年より51人少ない人数となる見込みです。次に、平成26年度の高等学校への推定進学率は、ここ数年97%の前半で推移していることから進学率が高止まりしつつあると判断し、昨年度と同様に、より実態に近い進学率を求めるため、直近 3 年間の実質進学率の平均を推定進学率としました。平成23年度が97.1%、平成24年度が97.3%、平成25年度が97.2%でしたので、平成26年度を97.2%と算出しました。次に、卒業予定者数14,081人に推定進学率97.2%を乗じて算出したのが平成26年度高等学校進学者の推定数になります。人数は13,687人となり、昨年度に比べ29人の減少となります。このため、平成26年度の募集人員については増加をしないこととし、来年度、県立青翔中学校を青翔高等学校に併設する形で開校することに伴い、中学校で 1 学級募集することから、青翔高等学校の募集学級数を 1 学級減少させるため、平成26年度の県全体の募集人員は 1 学級40人の減で、 8,458人、 214学級とさせていただきたいと</p>	

議案及び議事内容

考えております。

『定時制課程の募集人員』ですが、平成25年度の募集人員と同数の県立高等学校 382人と、分校60人とを合わせて、合計 442人募集させていただきたいと考えています。

『通信制課程の募集人員』は、平成25年度と同数の 150人を大和中央高等学校で募集したいと考えております。

学校ごとの募集人員については、『平成26年度奈良県立高等学校入学者募集人員』の一覧表で示しております。各学校全体の募集人員と学科、コース別の募集人員を2月実施の特色選抜、3月実施の一般選抜に分けたものを示させていただいております。」

松村委員長「ただいまの件につきまして、ご意見ご質問はございませんか。」

花山院委員「高等学校進学者の推定数と募集人員の差は、県外に進学する生徒と県内の私立に行く生徒の数だと思いますが、これが毎年どのように推移しているのかを教えてください。もう一つは、結果的に定員割れをする学校が出てきてしまいますが、それは多くの生徒が県立高等学校へ進学できるという一面もあります。これらを踏まえた、この数値を設定するときの考え方を教えてください。」

学校教育課長「他府県への生徒の出入り状況ですが、平成25年度については県内から県外の高等学校に進んだ生徒が 1,536人です。逆に県外から県内に入ってきた生徒が 952人で、その差は 584人です。平成22年度が 505名でしたので、徐々に増えているという状況です。定員割れの状況ですが、昨年度は約 220名でした。できるだけ定員割れを防ぐため、各学校で特色あるコース設定や学科の設定等をしております。平成25年度入試では十津川高校の普通科に工芸コース、大淀高校の普通科に看護・医療コース、また大宇陀高校の普通科にライフクリエイティブコースを設置する等により、定員割れは 167名となり、昨年度よりやや改善しました。できるだけ新たな特色あるコース等を設定することにより応募者が増えるような配慮を行い、募集人員を設定しております。」

松村委員長「定員割れというのは一次試験での話ですか。」

学校教育課長「一次募集を行い定員に満たないところが、二次募集を行い、それでも定員に満たないところの数です。」

松村委員長「それでは、定員よりも受験生が少ないということですか。」

花山院委員「そのようですね。しかし、今のご説明では、それは徐々に解消されてきているようです。ただ、県立としては、受け入れの門戸を広くという面もありますので、適正な数であるということを理解できました。」

学校教育課長「平成25年の入試で競争倍率が1.11倍、昨年は1.06倍でした。1.1倍前後を推移している状況です。」

松村委員長「全日制で不合格となって、定時制に行く場合はあるのですか。」

学校教育課長「一次試験で全日制を受けて不合格で、二次で定時制に合格する場合があります。」

松村委員長「他にご意見がないようですので、原案どおり議決してよろしいですか。」

各委員一致で可決

松村委員長「議決事項1については可決いたします。」

議案及び議事内容

報告事項 1 平成25年9月定例県議会の概要について

松村委員長「それでは、報告事項1『平成25年9月定例県議会の概要』について報告願います。」

教育長「9月17日から10月7日まで開催されました、平成25年9月定例県議会の概要につきまして、9月2日開催の初度委員会及び13日開催の事前委員会の概要を含めまして、教育次長よりご報告いたします。」

教育次長「まず、9月議会において教育委員会に係る事案の全体について、ご説明いたします。報告事項として、退職手当返還請求事件の専決処分を報告しました。次に、文教くらし委員会において、初度委員会では、1人の委員より質問2件、事前委員会では、4人の委員より質問11件、要望1件がございました。次に、本会議において、代表質問については、2人の議員により、大きな括りで質問3件、一般質問については、4人の議員により、大きな括りで質問6件、要望1件がございました。また、予算審査特別委員会の教育委員会に対する審査は、10月2日に行われました。6人の委員より質問10件がございました。最後に、文教くらし委員会委員長報告及び予算審査特別委員会委員長報告ですが、10月7日の議会閉会日に行われ、議会は閉会しました。以上が全体の概要でございます。

続きまして、答弁の概要をご報告いたします。まず、初度の文教くらし委員会です。日本共産党宮本委員より、学校での児童生徒の怪我に対する対応方法の質問と、放射線に関する授業に関する要望がありました。次に、事前委員会としての文教くらし委員会の答弁概要です。日本共産党宮本委員からは、学校の空調整備、就学援助制度、学校徴収金に関連して、保護者負担の軽減に関する質問があり各課長から現行制度等の説明をさせていただきました。民主党猪奥委員からは、地域と一体になった防災教育の推進について、奈良維新の会大坪委員からは、熱中症対策について、同じく大坪委員から、学校・地域パートナーシップ事業について質問があり、各々、担当課長から現在及び今後の取組みについて説明をさせていただきました。奈良維新の会の大坪委員より、国歌・国旗の記述内容に関連して、日本史教科書の採択についての質問が、漫画「はだしのゲン」の学校図書館での配置状況についての質問がなされました。無所属の阪口委員からは、教育委員会制度に関して、現行制度に賛同する立場で、更なる活性化についての質問がありました。富岡教育長から、教育委員会の協議会（勉強会）などの現在の取組みを説明いただきました。続いて、本会議の代表質問と一般質問の答弁の概要をご報告いたします。まず、代表質問の概要ですが、民主党高柳議員より『教育予算について』、県立高校の教育予算が他県に比べ低位である旨の質問がありました。これに対して、荒井知事から、学校再編に伴う規模の利益が影響していること、耐震化対策など必要な分野への効率的な予算配分を工夫していること、などについて答弁いただきました。同議員より、『インクルーシブ教育の理念に関連して、『地域の学校での特別支援教育の充実』の質問があり、教育長から、一層きめ細かい対応をしていく旨答弁いただきました。公明党大国議員より、『学校における防災対策について』、緊急地震速報の発表された際の対策の質問があり、教育長から、対策マニュアルの作成配付など今後の対策について答弁いただきました。同じく、大国議員から、『いじめ対策』についても質問がありました。以上が代表質問の概要です。次に、一般質問の概要ですが、自由民主党安井議員から、『県立学校の耐震化』について、同じく自由民主党の宮木議員から、『子どもの規範意識や社会性の醸成』、『中学生の体力向上』、『県立高校の空調設備の設置』について、教育委員会に『しっかりと取り組んでほしい』という応援エールの意味を含めた質問を頂きました。そのほか、『いじめ対策における警察OBの活用』の質問、『伝統芸能の継承活性化』の要望、『特別支援教育の充実』の質問を頂きました。以上が一般質問の概要です。続きまして、予算審査特別委員会の、答弁の概要をご報告いたします。民主党高柳委員より『教育予算について』、同じく高柳委員より通学バス路線を守る立場で、『高校生の通学手段調査について』ご質問をいただきました。『平成27年度の全国高校総体の開催に向けて』、施設などの準備対策について自民党宮木委員より、『いじめ対策と道徳教育について』自民党改革中村委員より、その他、『いじめ問題における加害者へのケアについて』、『平城宮跡整備について』、『不登校児童の適応指導教室について』、『公立中学校における武道必修化の実施状況について』、『災害時に避難所指定

議案及び議事内容

されている県立学校の初期対応について』の質問もありました。これらについて、教育長や担当課長から答弁していただきました。」

松村委員長「ただいまの件につきまして、ご意見ご質問はございませんか。」

森本委員「9月議会の関係で、文教くらし委員会、一般・代表質問を含めて、幅広く質問が出ていますが、例年このようにたくさんの質問が出ているのですか。」

教育長「例年と同じぐらいの質問数です。」

森本委員「近年、いじめの問題等日本国内ではいろいろな教育問題が発生していますが、それに伴って教育委員会に対して多くの質問がなされているということはないのですか。」

教育長「ここ1,2年はいじめと体罰の問題が出てきましたので、それがなかった3年ほど前はもう少し少なかったです。いじめの問題が出てきたときには1日に9問ぐらい質問が出たこともあります。体罰の問題が出たときにも同様で、質問数は近年増えています。」

松村委員長「被災地からお子さんたちが来られています、そのお子さんたちへのいじめや差別はありませんか。」

教育長「私が把握している限り、奈良県独自のものはありません。ただ、日本全体で言うと放射能に対する無理解から問題が出ているとは聞いています。学校教育課、生徒指導支援室、教職員課では何か把握していませんか。」

学校教育課長「被災地からは、幼稚園で7名、小学校39名、中学校9名、高等学校7名、合計62名の児童生徒を受け入れておりますが、いじめについて、学校教育課としては聞いていません。」

生徒指導支援室長「被災地から児童生徒を受け入れている学校には、スクールカウンセラーを配置しています。その中でもいじめられた等の相談は聞いていません。」

教職員課長「2年前の教員採用で、東日本大震災特別選考枠として11名に来ていただいています。その先生方で3月11日を福島で経験された方がいますので、学校での防災訓練等でかなり活躍いただいております。保護者からも感謝されているとの話を聞いています。」

松村委員長「放射能に対する理解がなされていないのではないかと気になって聞いてみました。」

花山院委員「平城京に関する整備について質問をされています。この中で、四阿という休憩施設を建てるということですが、平城京は元々何もなかったのが遺構を傷つけないことが前提であるし、私もそうあるべきだと思います。しかし、便益施設があることによって多くの人を訪れて施設全体を守ることもつながりますので、配慮さえすればある程度おもてなしは必要だと思います。このような施設を建てる場合、かなり制約があるのですか。便益施設がある程度ふさわしい形で建っているのは必要不可欠だと思いますので、どんな制約があり、どこまでが容認されるのか教えてください。」

文化財保存課長「便益施設は史跡地内においても建てられる場合があります。ただし、中核部分、平城宮跡で言えば、第一次朝堂院、第二次朝堂院など築地塀に囲まれていた中には便益施設は建てられないという制約があります。次に、史跡の景観に影響を及ぼさないものにする必要があります。そして、建てるときには地下遺構の保存に影響がない、つまり盛り土をするなどの工法を考えて行う必要があります。」

議案及び議事内容

花山院委員「日本の中であれだけの古い都の跡が残っているところは他にありません。今言われた事が守られる中で、観光客のみなさんが来たときに、歴史のロマンを感じながら心地よく過ごせるためには、便益施設は大切ではないかと思ひ質問させていただきました。」

教育長「佐賀県の吉野ヶ里遺跡には便益施設がありませんでした。一時ものすごい人が集まりましたが、休憩するところがなく、今は閑古鳥が鳴いているようです。平城宮跡は都市公園でもありますので、多くの人に来ていただき、憩いの地としての公園の部分もありますが、世界遺産の部分と史跡の部分もあります。計画を見せてもらいましたが目立たないところへ便益施設を建てますので、文化財保存法に照らして問題はありません。」

花山院委員「多くの国の予算を投入しているので、守っていくのと同時に、多くの人に来ていただくべき場所だと思います。」

教育長「太極殿は文化財ではありませんが、今、文化財保護法を所管している文化庁自体が、活用と保存は両輪であると言いついでしています。それはなぜかという税金を投入して保護しているのに誰も見られないなら意味がない、国民的な盛り上がりを作らないと保存自体もうまくいかないからです。そういう視点から見ても問題ないと思ひます。」

花山院委員「文化庁は数年前から、保存と活用について、文化財を持っているどこの施設に対しても、できればしてほしいと言いついでています。」

森本委員「以前にもお話ししましたが、通学路の安全について、最近もまた京都で交通事故が起こつていて、奈良県でも同じような場所があると思ひます。警察OBの活用や地域の見まわり隊などの活動をされていますが、常時、注意喚起などの発信が必要だと思ひますが。」

保健体育課長「通学路の安全については、京都府内で様々な交通事故が起こつています。それらを受けまして、県警と道路管理者、そして教育委員会の3者で合同の通学路点検のための協議会を設置し、定期的に会合をもって、随時道路整備等を進めています。奈良県では有山楓ちゃんの事件が平成16年に発生しました。登下校中の安全という意味においては、交通安全、不審者、防災といった3つの視点から通学路の安全を高めるための活動をしなければならないと思ひています。そういった視点で、随時、点検・見直しを進めながら市町村にも発信していきたいと思ひています。」

松村委員長「他にご意見がないようですので、承認してよろしいですか。」

各委員一致で承認

松村委員長「報告事項1については承認いたします。」

報告事項2 平成25監査年度第1回監査結果報告について

松村委員長「それでは、報告事項2『平成25監査年度第1回監査結果報告』について報告願ひます。」

教育長「平成25監査年度第1回監査について奈良県監査委員から結果報告がありましたので、概要につきまして教育次長よりご報告いたします。」

議案及び議事内容

報告事項 2 平成25監査年度第1回監査結果報告について

松村委員長「それでは、報告事項2『平成25監査年度第1回監査結果報告』について報告願います。」

教育長「平成25監査年度第1回監査について奈良県監査委員から結果報告がありましたので、概要につきまして教育次長よりご報告いたします。」

教育次長「監査の結果につきましては、地方自治法の規定により、各行政委員会へも報告が提出されることとなっております。この第1回報告書が、9月11日付けで教育委員会あてに提出されましたので、その内容についてご報告させていただきます。この報告は、今年1月から8月にかけての定期監査を含めた3つの監査の結果報告です。このうち、教育委員会関係では、定期監査分が該当しています。

監査対象は本庁及び出先機関の154所属、内訳は本庁111、出先機関43です。教育委員会は本庁が10、出先機関が10です。『監査の結果』について御報告いたします。全体で、『指摘』事項が38件、『注意』事項が78件、『意見』が34件、計150件ございました。そのうち教育委員会関係は、計41件でした。内訳として、『指摘』が12件、『注意』が22件、『意見』が7件でした。県立高校なども含むため所属数自体が多いとは言うものの、他の部局に比べて、かなり多い現状です。次に、『監査の結果』の『所属別』の概要について、教育委員会関係分を御報告いたします。収入面や支出面等での事務手続きで、多くの改善点が述べられており、これらの指摘等を真摯に受け止め大いに反省しなければならないと考えています。原因は、総じて述べると、担当者が財務会計規則の知識不足や、内部のチェック体制が不備であることなどが主な原因と考えられます。今後、各所属に対しルールの徹底を図り、各所属の内部チェック機能を強化する等の取組みを強化していく決意です。」

松村委員長「ただいまの件につきまして、ご意見ご質問はございませんか。」

花山院委員「教育委員会は学校があるため、組織が分散していますが、それは他の部局でもあり、警察は3件であるのに対して教育委員会は41件です。原因は担当者の知識不足であったり、チェックが出来ていなかったりしたということでしたが、これをどう改善していこうと考えておられるのか教えてください。」

教育次長「構造的な原因として、以前は各課に庶務係がありましたが定員削減に伴い、庶務機能が各部局の主管課にある予算経理係に集約されています。そのため、チェックにも限度があり漏れ落ちが起こっています。このような問題がありますので、会計局でも研修をしていますが、各課ではいろんな事業をしながら財務会計上のチェックをしなければいけない状況です。奈良県で最近起こった問題として、所得税の源泉徴収が漏れていました。庶務的な機能のチェックについて、全庁的なプロジェクトチームを立ち上げ、原因究明を行い、場合によっては組織的な対応も考えています。そういったことも踏まえ、教育委員会としましても独自にも考えて対応したいと思っています。」

佐藤委員「我々も製造業をやっていると、クレーム問題があります。それへの対応は、責任は問わないが原因は究明するという姿勢になります。毎年同じようなことが起こり、同じ原因ではないかと思えます。それらの問題を一つずつ潰し、それを繰り返さないように改善していくことが必要だと思います。がんばってください。」

森本委員「教育のことが大変なのに、会計的なことにも新聞発表等で教育委員会が一番指摘事項が多いことは大変だと思いますが、努力いただきたいと思えます。」

議案及び議事内容

松村委員長「他にご意見がないようですので、承認してよろしいですか。」

各委員一致で承認

松村委員長「報告事項2については承認いたします。」

その他報告事項

松村委員長「この他に報告・連絡事項等はありませんか。」

教育長「その他報告事項が8件ございます。教育次長から3件、教職員課長から1件、生徒指導支援室長から1件、人権・地域教育課長から2件、保健体育課長から1件を続けて報告いたします。」

1 第4回奈良県地域教育力サミットについて

教育次長「9月5日に春日野荘で開催いたしました。知事をはじめ17名の委員に御出席いただき、県教育委員会からは、松村教育委員長、藤井教育委員、富岡教育長が出席されました。サミットの内容ですが、知事挨拶の後、第1部会から第4部会までの各部長からそれぞれのテーマについて、現在の取組の状況や、課題から見えた方向性、今後の具体的な取組が提案され、協議が行われました。次に、議長より、新たに『奈良教育基本問題検討部会』を設置し、奈良らしいユニークな教育の理念『奈良教育理念』を検討すること、さらに、具体的な成果目標として、あらゆる教育分野の成果指標において全国トップクラス、ベスト10以内を目指すことが提案されました。最終的には条例の制定も視野に入れていくことも提案されました。今後は、より具体的な検討を進めていくための事務体制を整えていく予定です。」

2 第5回協議会（勉強会）の概要について

教育次長「9月6日に特別支援教育をテーマに開催されました。事務局から、特別支援教育の現状について、ほぼ10%近い児童生徒が特別支援教育の対象になっていることや、年々増加していること等について報告しました。また、奈良県の特別支援教育の課題と方向性について、キャパシティの不足等が課題としてあげられ、特別支援学校の過密化を解消し、インクルーシブ教育を推進していくために、高等学校に特別支援学校の分教室を設置することが検討されていることを報告しました。この報告を受けて、委員から、他府県の状況についてご質問があり、事務局から、奈良県の特別支援学級には、6人の児童生徒に対して1学級を設置しており、教員数が他府県に比べて多く、手厚く行き届いた教育ができていると説明をいたしました。また、委員から、障害のある生徒の就労と社会参加を目指し、職業教育を充実させることが重要であるとのご意見がありました。教育長からは、高等養護学校では就職率100%を目指し、取組をすすめていると説明いただきました。最後に、本県では、自立して生活できる子どもが一人でも二人でも増える教育システムをつくっていくことが大切であるという共通理解をしました。」

3 平成25年度「わくわくまなびフェスタ」の開催状況報告について

教育次長「今月6日、教育研究所で開催されました。ねらいは、学習意欲の向上ですが、教育に関する様々な27のプログラムを実施いたしました。例えば『サイエンスラボ』では奈良高校と青翔高校の生徒にご協力いただきました。また、『わくわく相撲』では、御所実業高校の相撲部や、法隆寺国際高校の生徒にご協力いただきました。『えいごでわくわく!』は、ALTの方に

議案及び議事内容

ご協力いただきました。参加者数は、来場者数が1,609名、スタッフの517名を合わせますと2,126名で、昨年より84名の増となりました。こどもたちへのアンケート結果では、『家でもやってみよう体験があった』と71.3%が回答し、大人へのアンケートでも『参加して楽しかった』と、ほぼ100%の方に評価いただいています。さらに、『子どもの勉強の入口になりそうよかった』という感想も書いてくださっています。『様々な教育力を結集させ、学びへの気づきの機会を提供する』というフェスタのねらいは、十分に達成できたと考えております。」

4 平成26年度奈良県・大和高田市公立学校教員採用候補者選考試験（第2次）の結果について
教職員課長「合格者は総数450名で採用予定者数と同数です。校種別の内訳としては小学校が一番多く205名、中学校130名、高等学校56名等となっています。採用区分は、大和高田市が2名で残りの448名が奈良県への採用となっております。合格者の内訳は、男女別では男女とも同数で50%ずつです。昨年度は男性が45.4%でしたので、男性はやや割合が増えています。大学もしくは大学院に在学し、今年度末に卒業を予定している新卒と既卒の別では、新卒が44.9%で、昨年度は44.5%でしたのでほぼ同割合です。年齢別では、一番多いのが20～22歳です。平均年齢は26.0歳で、昨年度が26.3歳でしたので、やや若返りしています。最高齢は44歳で昨年度と同じです。41才以上も7名おります。合格倍率は5.8倍であり、昨年の5.6倍より上がったという結果です。」

5 平成25年度奈良県高等学校生徒会連絡会「十津川村道普請」ボランティア活動について
生徒指導支援室長「この活動は、県内国公立全ての高等学校、特別支援学校の生徒会が加盟している生徒会連絡会が平成23年の設立以来、取り組んでいる活動で、高校生に社会の一員であるという自覚、人間尊重の精神に立って、社会の中で共に生きる豊かな人間性を醸成する機会として実施しています。今回は十津川村谷瀬地区の林道整備の活動を行いました。谷瀬の吊り橋の向こう岸の山林の中での実施となりました。8月末の夏休み中に予定していましたが、雨天のため、9月7日の実施となったことから参加者は7校から18名の参加に縮小しましたが、どの生徒も終始懸命に取り組んでくれました。また谷瀬地区の方からは、高齢化や過疎化の状況や地域の活性化に取り組んでいる状況を聞かせていただいたり、地元名物のメハリ寿司など手料理を準備いただいたり、温泉にご案内いただいたり、温かくおもてなしをいただきました。参加した生徒の感想文には、2年前の紀伊半島大水害による爪痕を見て、『想像以上（の惨状）に衝撃を受けた』とか『活動は地味だったけれど楽しかった。また、何かボランティア（の機会）があれば参加したい』、『また、十津川に来たい』といった感想もありました。」

6 ふれあいフェスタ2013の開催について

人権・地域教育課長「10月26日、27日の2日間、うだ・アニマルパークを会場として、ふれあいフェスタ2013を開催します。3回目の開催を迎えます本年度は、『いのち・絆・ぬくもり！』～笑顔でつながろう地域コミュニティ～をテーマといたしまして、教育委員会の4課室とうだ・アニマルパーク、大宇陀高校、山辺高校、榛生昇陽高校で実行委員会を組織し運営いたします。また、県内11校の高校生と、家庭教育啓発チーム『きらら』が2日間で260名、スタッフとしてフェスタの企画、運営をサポートします。プログラムの内容としては、県教育委員会が実施するプログラムの他、うだ・アニマルパークの通常のプログラムが実施されます。広報といたしましては、県民だよりや教育委員会HPの他、今年度は、宇陀市の広報誌への掲載を初め、宇陀市ケーブルテレビを通じて地元へ情報発信されます。また、9月下旬に宇陀市の全幼稚園、保育園・所をはじめ、県内全小学校の子どもたち一人一人に届くようチラシ9万部を配布致しました。」

議案及び議事内容

7 平成25年度県教育委員会事務局職員「人権教育研修会」の開催について

人権・地域教育課長「県教育委員会事務局職員の人権意識の高揚を図ることを目的に、9月2日と9日の2日間、自治研修所と教育研究所で開催し、229名が参加しました。本研修会は、今年で2回目を迎えます。まず、県教育委員会が作成しております人権教育学習資料集『なかまとともに』のコンセプトについて、プレゼンテーションによって説明しました。つづいて、市町村人権・同和問題『啓発連協』事務局長の成田進さんに『差別の現実に学ぶ～地名問い合わせ事象から～』と題して、行政職員としての的確な対応、及び県民啓発のためのご講演をいただきました。最後にまとめとして、『同和地区問い合わせへの対応について』～行政職員の責務として～の内容を説明しました。アンケートから、『今後の職務に生かしていきたい』といった意見を多くいただきました。」

8 平成25年度学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰について

保健体育課長「表彰につきましては、学校保健及び学校安全の普及と向上に尽力し多大の成果をあげた個人、学校及び団体に対し、文部科学大臣から表彰状が授与されるものです。学校保健関係では、学校医・学校歯科医・薬剤師の中から、天理市立柳本小学校学校医の高宮晋一先生、学校長の部では、奈良市立あやめ池小学校校長の西田恭子先生が受賞されました。学校安全ボランティア活動関係として、磯城郡川西町の川西町見守り隊が受賞されました。この選考につきましては、審査会を6月6日に開催し、厳正に審査をしていただき、文部科学大臣に推薦を行い、決定いたしました。表彰式及び表彰場所については、11月7日に秋田県で開催される『第63回全国学校保健研究大会』において表彰されます。」

松村委員長「ただ今、8件のその他報告事項がございましたが、ご質問等ございませんか。」

森本委員「県高等学校生徒会連絡会による、十津川村での道普請ボランティア活動について質問します。ボランティアは東日本大震災や阪神大震災以降、日本の国内でも地についてきています。今回は2年前に起こった紀伊半島大水害の復興支援ということですが、生徒たちに、ボランティア活動についての意識付けをしていただくのは良い行事と感じています。これから成人していく人に、そういう精神を持たせられるこのような事業は、定期的に多くやってもらえばいいと思います。これは県内ですが、最近の京都のように、県外で水害などがあった場合は入らないのですか。」

生徒指導支援室長「現在生徒会連絡会で集まったときに生徒自身がいろいろと活動内容を考えられています。今のところ紀伊半島大水害の被災地での活動です。平成23年には他の部局の事業を活用して、東日本大震災の被災地で活動を行いました。また、10月を清掃強調月間として各学校で通学路や公共施設の清掃等に取り組んでいただいています。」

松村委員長「東北へは何回かに分けて行かれたのですか。」

生徒指導支援室長「バスで2班に分けて行きました。」

松村委員長「他にご質問、ご意見はございませんか。」

松村委員長「では、次に秘密会に入ります。」

議案及び議事内容

議決事項 2 平成25年度文化財保護功労者感謝状の贈呈について（秘密会）

議決事項 2 について、教育長、文化財保存課長から説明があり、全委員一致で可決された。

松村委員長「本日の議案は全て終了いたしました。この他に報告、連絡事項等はありませんか。」

松村委員長「それではこれもちまして、本日の委員会を終了します。」